

4月2日 国際子どもの本の日



4月2日は、デンマークの童話作家ハンス・クリスチャン・アンデルセンの誕生日、「国際子どもの本の日」です。1966年にIBBY（国際児童図書評議会）の創始者イエラ・レップマンが提案し、翌1967年に記念日に制定されました。以来、子どもの本で国際理解を深めるために、毎年各国でお祝いや特別なイベントが行われるようになりました。1969年からはIBBYに加盟する国々が順番に、メッセージとポスターを作成して発信しています。

2024年には日本が担当し、「物語をつばさに 想像を力に あらたなはじまりへ」というメッセージを世界の子どもたちに届けました。今年はキプロスが担当しています。

— 2026年国際子どもの本の日・キプロスからのメッセージ —
「ものがたりを植えよう 世界中にさくように」

4月23日「子ども読書の日」 <2026・第68回こどもの読書週間>

今年も、4月23日（木）の「子ども読書の日」から5月12日（火）までの20日間が、「こどもの読書週間」です。

今年の標語は、**「ことばがきみのはねになる」**

年度初めのご多用な時期とは思いますが、子どもと本の素敵な出会いや子どもの読書活動のきっかけになるような空間と時間づくりをお願いします。また、ポスター等、下記のHPよりダウンロードできますので、活用してみたいはいかがでしょうか。

<公益社団法人 読書推進運動協議会>

<http://www.dokusyo.or.jp/jigyo/kodomo/kodomosozai.htm>

— 第12回 全国高校ビブリオバトル決勝大会 —

「子どもと本の日通信」11月号では、ビブリオバトル福岡大会の紹介をしましたが、その決勝大会でもある第12回全国高校ビブリオバトル決勝大会が、2月8日に東京で開催されました。

決勝大会のグランドチャンプ本（聴衆が最も読みたくなった本）は、青森県立八戸東高校2年の前田詩歩さんが紹介した『記憶にありません。記憶力もありません。』（土屋賢二 著、文藝春秋社）となりました。

<第12回全国高等学校ビブリオバトル決勝大会 入賞者が紹介した書籍>

優勝	『記憶にありません。記憶力もありません。』（土屋賢二 著、文藝春秋社）
準優勝	『ざんねんな万葉集』（岡本梨奈 著、飛鳥新社）
特別賞	『自分のあたりまえを切り崩す文化人類学入門』（箕曲在弘 著、大和書房）
特別賞	『ナカスイ！ 海なし県の水産高校』（村崎なぎこ 著、祥伝社）

知的書評合戦ビブリオバトル公式サイトでは、『ビブリオバトルは、誰でも開催できる本の紹介コミュニケーションゲームです。「人を通して本を知る。本を通して人を知る」をキャッチコピーに全国に広がり、小中高校、大学、一般企業の研修・勉強会、図書館、書店、サークル、カフェ、家族の団欒などで、広く活用されています。』と紹介されています。

また、全国大会は、高校だけでなく、大学生や中学生を対象とした大会も、毎年行われています。皆さんも、機会があれば取り組んでみてはどうでしょうか。

ビブリオバトルは、以下のように進められます。詳しくは、「知的書評合戦ビブリオバトル公式サイトをご覧ください。

- 1 発表参加者が読んで面白いと思った本を持って集まる。
- 2 順番に1人5分間で本を紹介する。
- 3 それぞれの発表の後に、参加者全員でその発表に関するディスカッションを2～3分間行う。
- 4 全ての発表が終了した後に、「どの本が一番読みたくなったか？」を基準とした投票を参加者全員が1人1票で行い、最多票を集めた本をチャンプ本とする。

※ 3月22日に、全国中学校ビブリオバトル決勝大会が開催されています。
（結果は、読売新聞教育ネットワークHP等で見るすることができます。）

令和7年度も、あと8日となりました。本年度も、子どもの読書活動推進へ、ご協力いただき、ありがとうございました。来年度も、子ども達が、たくさんの本に出会うことができるように、それぞれの立場で、努力したいものです。今後も「子どもと本の日」通信をよろしくお願いいたします。

<須藤>



4月のことと人

4月2日 図書館開設記念日

1872年のこの日、東京湯島(昌平坂学問所 講堂跡)に、日本で初めて官立公共図書館である「東京府書籍館(しょじゃくかん)」が開設。書籍館とは、図書館の昔の言い方で、ロンドン図書館などを参考にして作られた初めてのヨーロッパ式図書館でした。

4月10日 教科書の日

4月は新学年が始まり、新しい教科書が配られ、教科書に対する関心が高まる時期であること、また、「よ(4)いと(10)しょ(良い図書)」と読む語呂合わせから、この日に制定。1969年度から、小・中学校全学年で、教科書が無償支給となりました。

乙武 洋匡

(1976.4.6～)

東京都生まれ。作家、タレント等。大学に在学中、早稲田のまちづくり活動に参加。このまちづくり活動取材したNHKの番組出演がきっかけで、障がい者としての生活体験をつづった『五体不満足』を1998年10月に刊行しました。「障がいは不便です。しかし、不幸ではありません」というメッセージと共に、文体の読みやすさもあり大ベストセラーとなりました。

はやみね かおる

(1964.4.16～)

三重県生まれ。小説家。小学校教師として、本嫌いの子供に本を薦めるうちに、自分でも本を書き始めるようになりました。1989年、『怪盗道化師(ピエロ)』が第30回講談社児童文学新人賞に佳作入選し、デビューしました。ジュブナイルミステリを主に書き、『夢水清志郎シリーズ』や『都会のトム&ソーヤ』シリーズなどが有名です。

木村 裕一

(1948.4.14～)

東京都生まれ。絵本作家。名前は漢字での表記の他、ひらがなで表記されることもあります。絵本・童話創作に加え、小説など多方面で活動しており500冊以上の著書には、海外でも翻訳出版されているものも多くあります。「あかちゃんのおそびえほん」シリーズは、累計1300万部を突破する大ロングセラーとなっています。また、代表作『あらしのよるに』では、多くの賞を受賞しました。

ウィリアム・シェイクスピア

(1564.4.26(洗礼日)～1616.4.23)

イングランド生まれ。劇作家、詩人。イギリスのルネサンス演劇を代表する人物でもあります。卓越した人間観察眼で書かれた心理描写により、もっとも優れた英文学の作家とされています。また膨大な著作は、初期近代英語の実態を知るうえでの貴重な言語学的資料ともなっています。特に、四大悲劇『ハムレット』『マクベス』『オセロ』『リア王』は有名です。

図書館員のひみつの本棚 第239回

今月は、花が綺麗な季節に読みたい本を紹介します。

『はなのすきなうし』

マンロー・リーフ／おはなし ロバート・ローソン／え 光吉 夏弥／やく
岩波書店 1980年 ¥800(税別)

<お勧め年齢>

乳幼児★☆☆ 小低学年★★★★ 小中学年★☆☆ 小高学年☆☆☆ 中学生☆☆☆
高校☆☆☆ 一般☆☆☆

(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

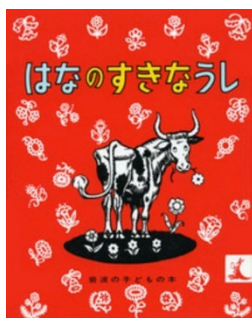
スペインにいる「ふえるじなんど」という子牛は、他の子牛のように跳んだりはねたりするのではなく、草の上に座って静かに花のにおいをかいでいるのが好きでした。その後「ふえるじなんど」は、とても大きくて強い牛になりましたが、やはり暴れるよりも花のにおいをかぐことが好きなまま。

ある日、人間たちが、マドリードの闘牛に出すための、一番大きくて一番足が速くて一番乱暴な牛を探しに来たのですが…？

<子どもに手渡す時のポイント>

字が大きく、すべてのページの見開きの左半分が挿絵になっているため、絵本から一人読みへの移行期にちょうどいい本です。(福岡市総合図書館では絵本に分類されています)

ただ、挿絵は白黒のみで、独特なタッチなため、とっつきにくい印象があるかもしれません。でも、ふえるじなんどの表情などがとてもユーモラスで味があり、闘牛場の様子なども詳細でわかりやすく、お話を読む助けになる挿絵です。無理に一人で読ませようとするよりも、一度読み聞かせをしてあげると、お話や挿絵の面白さに気付き、自分でも読めるようになっていけるのではないかと思います。



このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。